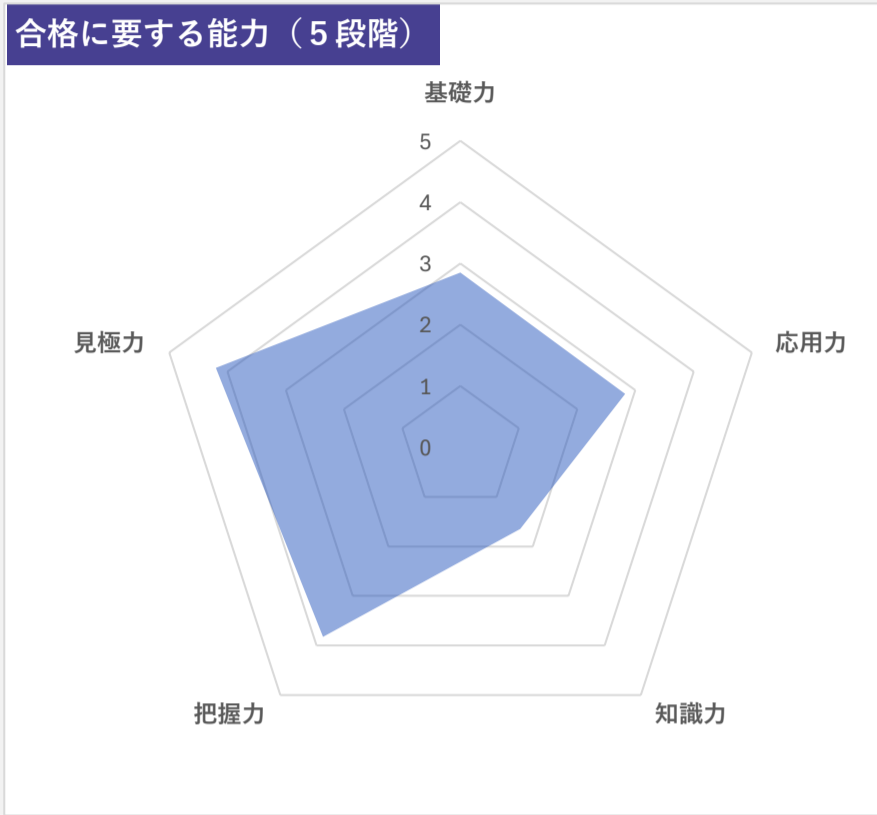


総合分析

試験区分	一般（前期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全4問
------	---------------	-----	-----



出題分野

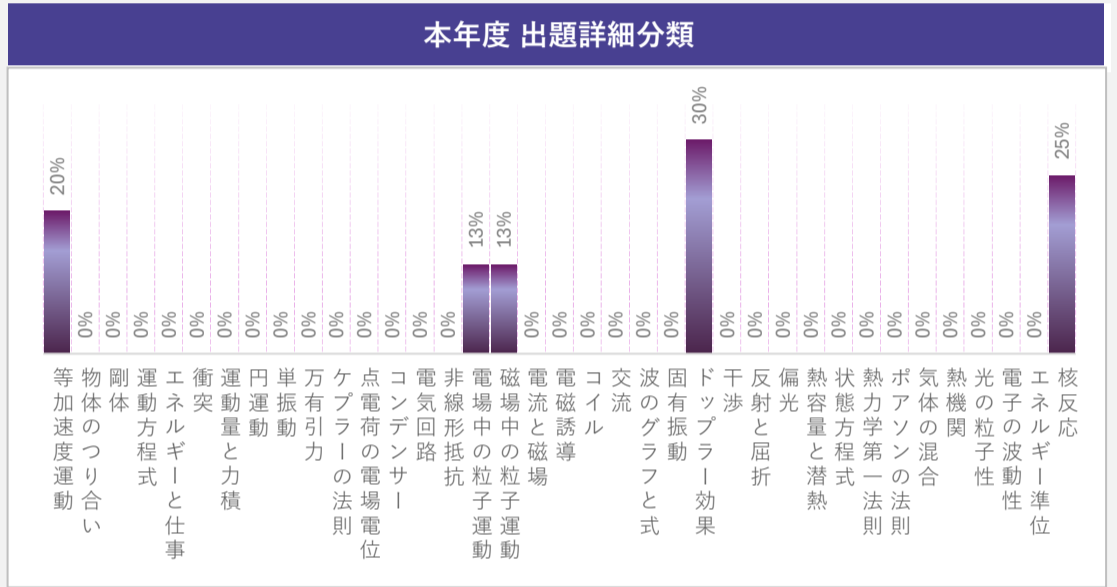
力学	20%
電磁気学	25%
波動	30%
熱力学	0%
原子物理	25%

本年度出題テーマ一覧

第1問	記録タイマーを用いた自由落下の実験
第2問	サイクロトロン
第3問	心筋層の厚さの変化率の測定
第4問	ルテチウム原子核の崩壊

本年度 解答形式

答えのみ記述	100%
--------	------



合格に要する能力（5段階）

基礎力	2.7	原理についての理解
応用力	2.6	演習経験による慣れ
知識力	1.5	用語を正確に覚えているか
把握力	3.6	臨機応変に状況を把握する力
見極力	4.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無

特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項 題意の不明瞭な設問を回避する必要がある。

総合評価

難度	3.0	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	66%
分量	72分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

物理の得意・不得意にかかわらず解答しにくい設問が目立つため、物理を得点源にしたい受験生にとって物理がアドバンテージとならない。記述を要する設問が多いことから、ただ正しい解答を出すだけでなく、考察を日本語で表現する力を持つ学生を求めていると考えられる。